

平成26年度文部科学省委託

「キャリア教育・就労支援等の充実事業」

研 究 紀 要



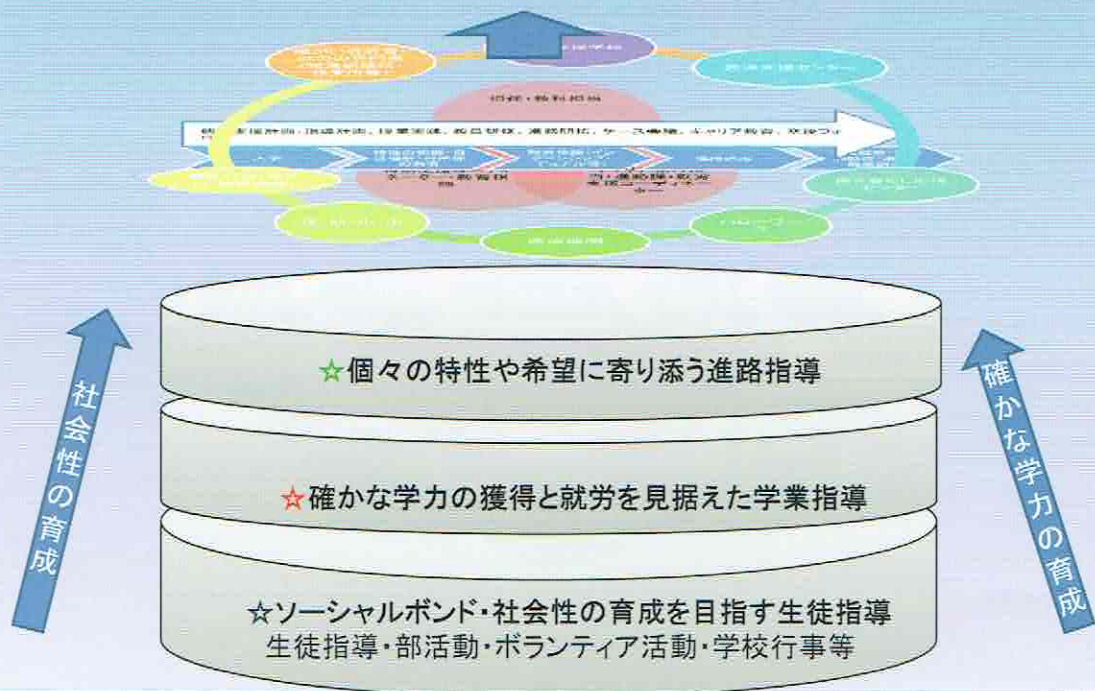
平成27年3月

滋賀県立湖南農業高等学校

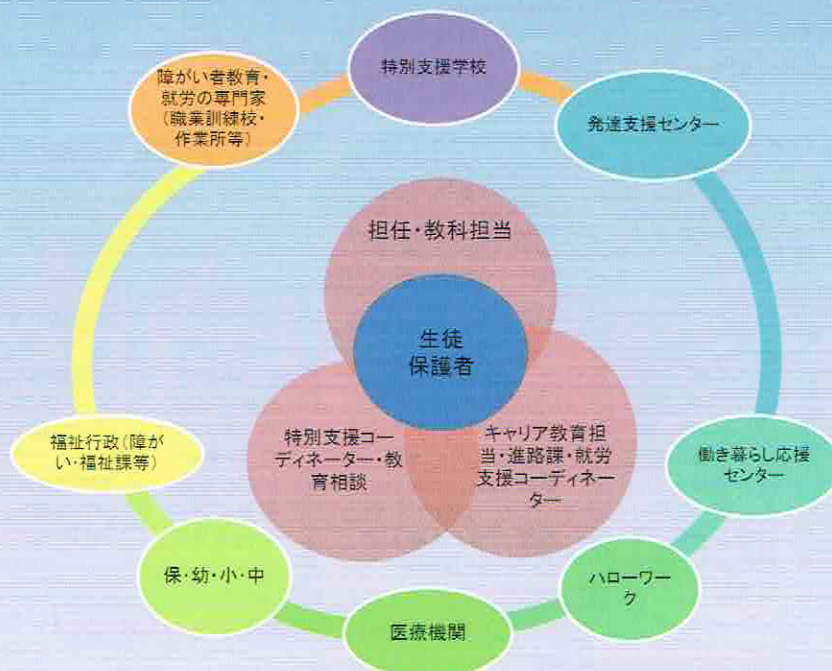


本校での教育の基本

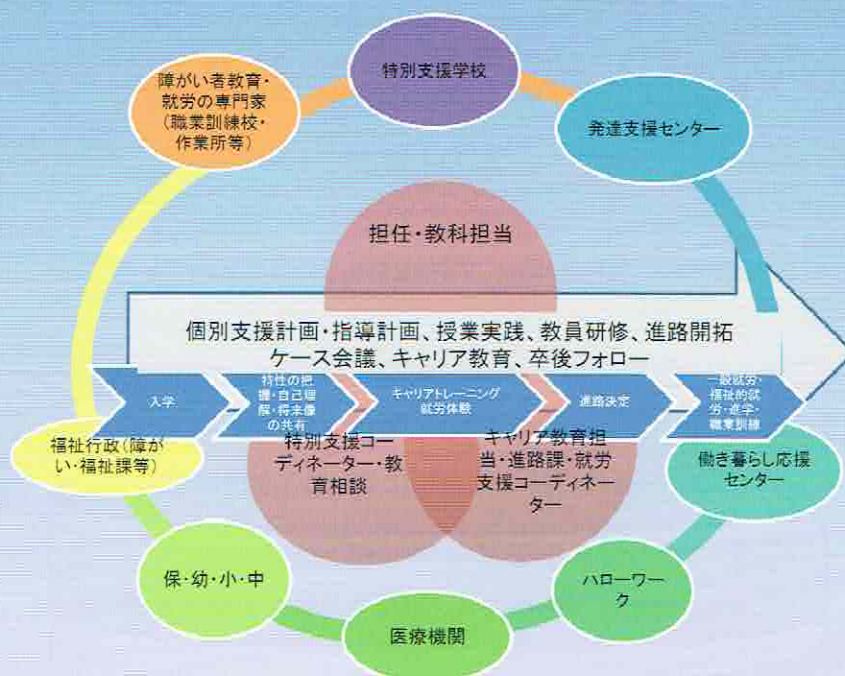
自己実現(社会的自立)・インクルーシブ社会の実現



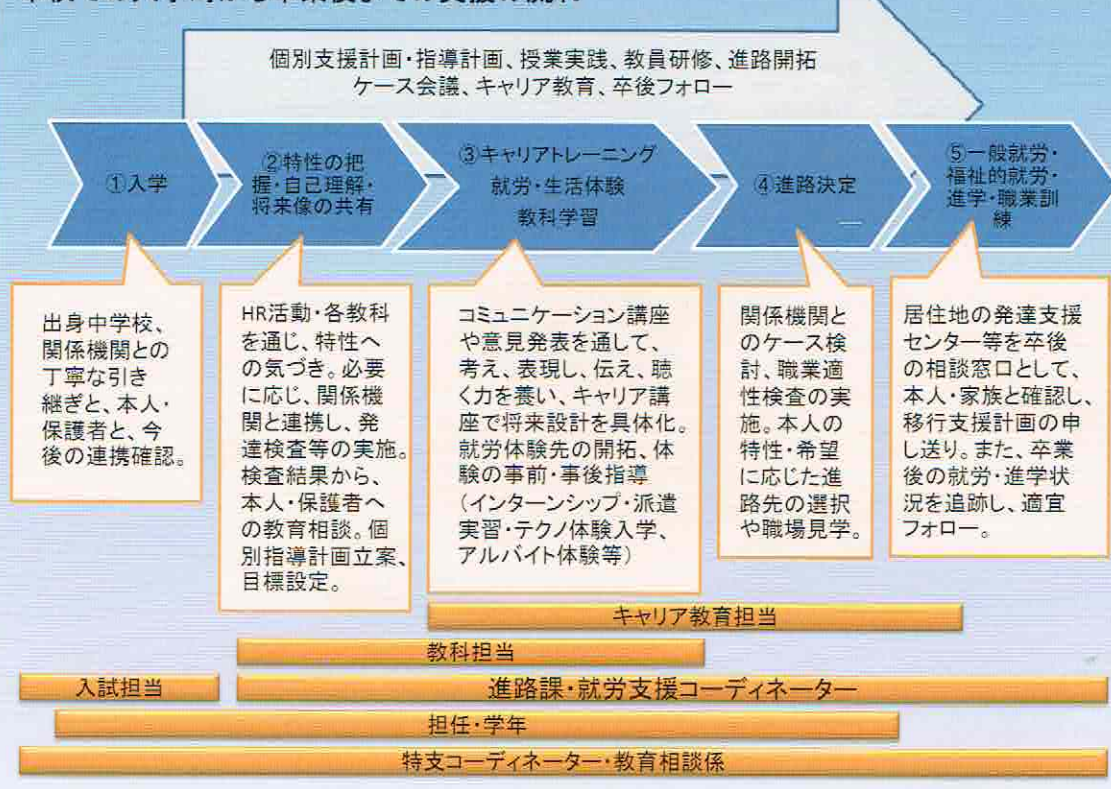
☆本校での就労支援等の枠組み



☆本校での就労支援等の取組概念図



本校での入学時から卒業後までの支援の流れ



平成26年度 キャリア教育・就労支援等の充実事業の指定を受けて

滋賀県立湖南農業高等学校長 寺井 久信

国連における障害者の権利擁護に向けた取り組みは活発で、国際的にはインクルーシブ教育が大きな潮流になっています。2006年に「障害者の権利に関する条約」が国連総会で採択され、2008年5月に発効しました。日本政府は2014年に批准し、これにより、教育の現場においてインクルーシブ教育をどのようにすすめていくかが喫緊の課題になっています。

このような動きの中、高校教育の現場でも、すべての生徒が、将来、社会的・職業的に自立して、社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしく生きるための力を育てる教育の推進が求められています。インクルーシブ教育システムの構築に向けては、教員自身が障害を含む教育的ニーズを有する生徒を受け入れていく意識を持ち、すべての人が共生することが正常な社会だという認識を持つことが何より大切です。

さて、本校では、約6割の生徒が就職を希望するなど、社会人が身近な存在であることから、キャリア教育を大きな柱に据えて教育活動を展開しています。さらに、特別な教育的ニーズを有する生徒に対しても、関係機関と連携し就労支援を行っています。

近年、本校に入学してくる生徒の状況にも変化が見られ、自分の特性の理解や、適性に応じた進路選択、将来設計が難しくなっています。生徒の自己理解を促し、社会で自立して生きていく力をつけるために、インターンシップ体験を含むキャリア教育の一層の充実とともに、障害のあるなしに関わらず、支援を必要とするすべての生徒のニーズに応えられる支援の充実の必要性を強く感じます。

本年度、文部科学省より「キャリア教育・就労支援等の充実事業」に係る研究指定を受け、高等学校段階における指導の充実や校内体制の整備を図るべく、さまざまな研究、実践を行ってきました。その中では、本校の強みである人権教育のアプローチがインクルーシブ教育の推進に生かせることも確認できました。

高校生活の中でうまく学ぶことができない生徒の気付きは、社会で生きていく力が弱い生徒の支援ニーズへの気付きでもあります。生徒の支援ニーズへの気付きを基に、私たち教員が自らの日常の教育活動を見直し、また、農業高校の特性も生かして、学力や規範意識だけでなく、社会で自立して生きていく力を育てるための実践について、次年度も継続して研究し、指導や支援を充実させたいと考えております。

本年度の研究、実践に関わる資料等を冊子としてまとめました。本事業に取り組む中で、外部委員の皆様から多くのご意見をいただいたことで、幅広い関係機関と連携し、支援のネットワークを構築することの重要性を再認識できたことは、今後の指導や支援の方向性を考える上で大変参考になりました。大変お忙しい中、4回の会議にご出席いただき、ご指導とご助言をいただいた7名の外部委員の皆様に、心より感謝申し上げます。

結びに、本校の研究指定の取り組みに多くのご指導をくださいました文部科学省並びに滋賀県教育委員会の皆様に厚くお礼申し上げ、巻頭の言葉といたします。

目 次

研究概要ポンチ絵

巻頭言

I 概要	1
II 詳細報告	3
III 文部科学省への提案	7
資 料 1	8
資 料 2	9
資 料 3	10
資 料 4	11
資 料 5	15
資 料 6	20
<付録>	
第1回教員研修資料	22
第2回教員研修資料	29
全人教レポート	32

I 概要

研究課題

高等学校における、特別支援学校や関係機関と連携した、特別な教育的ニーズを有する生徒のキャリア教育・就労支援の充実

研究概要

本校は、特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約14%を占める中、教育課程を工夫し、関係機関との連携により多くの生徒の就労支援を行ってきた。ただ、生徒一人ひとりがもつ教育的課題が多様化し、すべての生徒に十分な就労支援ができないのが現状である。

そこで、現状分析のもと、就職支援コーディネーターの配置を行い、労働・福祉等の関係機関と連携しながら、特別な教育的ニーズを有する生徒の就労先・就業体験先の開拓、就業体験時の巡回指導、卒業後のアフターフォロー等を行う。

また、キャリア教育のさらなる充実のため、教育課程を工夫し、保護者への理解啓発を進めることなどにより、一人でも多くの生徒の就労支援を行い、自立した社会参加ができるように取り組む。

研究の成果

・生徒の現状分析

本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況や中学校、関係機関からの情報を踏まえ分析した。結果、就労等支援の対象としてピックアップし66名の個別の指導計画を作成した。

・就職支援コーディネーターを6月より配置し、個別の案件の就労支援に取り組むとともに学校近隣の184社を訪問し、企業における求人状況、福祉就労、体験就労に情報収集を行いデータベースを作成した。

・就労支援ネットワーク会議を設立。外部委員を行政、福祉機関、職業専門校、特別支援学校教育関係者、保護者から委嘱し、合計4回の会議を実施した。

・個別の案件に関して、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携しケース会議を行い、具体的な就労支援を行った。

・特別支援学校の教員により、WISC検査を実施した。

・日々の教育活動の中で、全教員が授業改善に取り組み、課題のもと実践をおこない、98%の教員が良くなったと評価している。

・生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、保護者の啓発も含め、映画鑑賞にとりくんだ。生徒は、鑑賞後アンケートにおいて、98%の肯定的評価があった。

課題と今後の方策

- ・本年度の特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約14%であった。本県の中学校での特別支援学級の在籍率の1.9%と比較し、かなり多い。本校でのこの傾向は、暫く続くものと考えられ、本校でのキャリア教育・就労支援等の充実は喫緊の課題であると考えている。
- ・本事業の指定をうけ、校内体制、関係機関との連携、コーディネータの配置など、生徒の就労に対する支援体制が整った。また、教員の課題に対する問題意識も高まり、多くの実践ができた。
- ・今後の社会の有り様として、インクルーシブ社会の実現が、高等学校ではまだまだ認知されていない。障害者の権利に関する条約の批准について、学校現場でさらなる理解が必要である。

Ⅱ 詳細報告

1 研究の内容

(1) 現状の分析と研究の目的

- ・本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況や中学校、関係機関からの情報を踏まえ分析した結果、在籍者465名中、1年16名、2年24名、3年26名計66名（14.1%）の生徒を就労等支援の対象としてピックアップした上で、個別の指導計画を作成している。
- ・本研究では、これらの生徒の就労支援について、入学前から卒業後までを見据えた個別の支援計画をたて、特に必要と考えた場合、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携し、個別のケース会議を行い具体的な就労支援を行った。（3年8名（就職2名、進学（職業訓練校舎）5名、未定1名）3月1日現在）

(2) 取組内容

①モデル地域における取組

卒業後の進路にあわせて、生徒の支援移行を行ったが、その移行先として、居住地や就労先の市町村福祉行政、また、進学先へと従来の枠組みを越えた形で行った。これにより今後の支援を、本地域におけるいわゆる行政の福祉圏域や支援学校のセンター的機能の発揮のための巡回地域などに広げ、既存の枠組みを越えて連携することができるようになった。

②モデル校における取組

上述の取組を行うため、既存の枠組みにこだわることなく、連携先を開拓し、個別の支援へと繋ぐことができた。このことにより、本校を中心とした、新たな支援ネットワークを構築することができた。

(3) 研究の方法等

①就労支援ネットワーク会議等の設置

ア 構成委員

No.	所 属 ・ 職 名	備 考
1	大津市立やまびこ総合支援センター 社会福祉士	
2	湖南地域働き・暮らしセンター “りらく”	
3	湖南市社会福祉課発達支援室 室長	
4	滋賀県立草津養護学校 教諭	
5	滋賀県立高等技術専門校	
6	卒業生保護者	
7	小学校校長OB	

イ 会議開催回数・検討内容

No.	開催日時	会議等名称	検討内容
1	2014. 7. 22	第1回就労支援ネットワーク会議	研究計画へのアドバイス
2	2014. 10. 14	第2回就労支援ネットワーク会議	研究の進捗状況の確認
3	2014. 12. 3	第3回就労支援ネットワーク会議	研究の進捗状況の確認
4	2015. 2. 27	第4回就労支援ネットワーク会議	研究の評価

ウ ネットワークの構築による効果と成果

効果・成果等	今後必要な事項
幅広い関連機関との連携	各機関、代表との横の連携ができ、研究全体の計画を立てるとともに、随時研究の進捗状況を確認することができた。また、個別の事案に関しては、関係者が連絡を取り合い、スムーズにケース会議を開催することができた。

②就職支援コーディネーター等の配置

ア 人数及び経歴・所有する資格等

就職支援コーディネーター数（1人）

コーディネーター	経歴・所有する資格等	勤務形態
A	一般企業経験、公共職業安定所勤務	週4日（1日7:45）

イ 本事業における活動内容

コーディネーター	活動内容
A	就労・体験先の開拓、就労支援、各種会議出席、校内事務

ウ 関係機関や教職員との連携に係る工夫点と成果

工夫点	成 果
教員研修会の講師	関係機関の専門的な知識を享受することができた。
WISC-Ⅲ 検査の実施	委員の特別支援学校の教員により実施した。

2 研究仮説の検証

研究仮説	検証の結果
特別な教育的ニーズの必要な生徒の実態把握	約14%の生徒の個別の指導計画の作成
インクルーシブな学校づくり	・ 教員研修により、インクルーシブ教育について、教員の理解が進んだ。満足度（5点法）4.3、理解度（5点法）3.6であった。満足度は高かったが、理解度の方は、内容が初めての事で少し難しい内容であったのか、少し低かった。 ・ 全教員が、参考図書やホワイトボードを利用し、学校生活の多くの場面で授業改善に取り組んだ。全教員へのアンケートでは5点法で4.6という高い値で、授業が良くなったと答えており、生徒にとって理解しやすい授業づくりを工夫することができた。
実習をともなったキャリア教育	2年生全員でインターンシップとして、3年生の希望者に派遣実習で、企業実習を行った。インターンシップで90.1%、派遣実習で100%が「自分のためになった。」と満足度を回答している。

資料1

3 研究の成果

・ 生徒の現状分析

本校における、特別な教育的ニーズを必要とする生徒について、普段の学校や家庭生活での状況、中学校・関係機関からの情報を踏まえ分析した。結果、就労等支援の対象となる生徒をピックアップし、個別の指導計画を作成した。（在籍者465名中、1年16名、2年24名、3年26名計66名（14.1%））

・ 就職支援コーディネーターを6月より配置し、個別の案件の就労支援に取り組むとともに、学校近隣の184社を訪問し、企業における求人状況、福祉就労・体験就労についての情報収集を行い、データベースを作成した。

・ 就労支援ネットワーク会議を設立。外部委員を行政、福祉機関、職業専門校、特別支援学校教育関係者、保護者等に依頼し、合計4回の会議を実施した。この中で、本研究の取組について検証し、活動に繋ぎ、評価も行った。

・ 個別の案件に関して、行政、福祉関係、職業訓練校などの関係機関が連携しケース会議を行い、

具体的就労支援を行った。(3年8名(就職2名、進学(職業訓練校含)5名、未定1名))

資料2

・特別支援学校の教員により、発達検査を実施した(10件)。また、特別支援学校のセンター的機能の連携を1校から2校にした。

資料3

・日々の教育活動の中で、全教員が授業改善に取り組み、課題のもと実践をおこない、98%の教員が良くなった(変化なしを含むと100%)と評価している。

資料4

・生徒の就労意識の向上や自尊感情の高揚のため、保護者の啓発も含め、映画鑑賞に取り組んだ。生徒の鑑賞後アンケートにおいて、とても良かった(32.2%)、良かった(44.9%)普通(20.8%)、あまりよくなかった・よくなかった(2.1%)と98%の満足度で良かったと答えている。

資料5

4 評価計画

評価計画	結果等
1 発達検査の実施	15名の生徒について、養護学校、市の発達支援センターの専門家により実施した。
2 個別の支援計画、指導計画	66名の生徒の個別の支援教育、指導計画を作成。 8名の生徒については、支援の枠組みをつくりケース会議を行った。
3 自尊感情の変化(アンケート調査より)	2年生の1クラスについて、入学時および本年度の3月に自尊感情に関するアンケートを実施した。結果、学校生活に満足群の生徒が9名から13名に、要支援群が5名から1名になった。本校の取り組みにより、生徒同士がお互いに認め合い、親和的な人間関係が築かれ、主体的にいきいきした学級形成が行われていることが考えられる。 資料6
4 就労先企業と関係機関からの意見聴取	就職内定をいただいた企業と関係機関から、今後の支援について意見を聞き、連携について確認した。

5 研究の課題と今後の方策

- ・本年度の特別な教育的ニーズを有する生徒が全校生徒の約14%であった。本県の中学校での特別支援学級での在籍率の1.9%と比較し、かなり多い。滋賀県の小中学校における特別な支援を要する生徒の在籍率は増加の方向で推移しており、本校でもこの傾向は、暫く続くものと考えられる。本校でのキャリア教育・就労支援等の充実は喫緊の課題であると考えている。
- ・本事業の指定を受け、校内体制での分掌への位置づけ、関係機関との連携、コーディネータの配置など、生徒の就労に対する支援体制が整った。また、教員の課題にたいする問題意識も高まり、多くの実践ができた。
- ・インクルーシブ社会の実現が、高等学校ではまだ認知されていない。今後の社会の有り様として、「障害者の権利に関する条約」の批准について、学校現場でさらに理解する必要がある。
- ・本年度実施してみて、卒業生の追跡とフォローの必要性を強く感じている。

Ⅲ 文部科学省への提案

まだ1年であるが、本事業に取り組んで見て、多大な教育的成果をみた。この事業の継続と、他の各高等学校での就職支援コーディネーターの配置や就労支援ネットワーク会議の設立を望む。

また、次世代のあるべき社会の姿を考える上で、「障害者の権利に関する条約」の精神を大いに広めていく必要があると考える。

H26年度 インターンシップ生徒アンケート結果

全学科合計

	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)
事前学習は十分できた。	37.6	45.4	12.8	4.3
専門的な技術を学ぶことができた。	48.9	36.2	9.9	5.0
目上の方とうまく対応できるようになった。	46.1	44.0	7.8	2.1
実習日誌をうまくまとめることができた。	33.8	49.3	15.5	1.4
この体験を将来のために生かすことができそうだ。	33.3	51.1	7.8	7.8
成果発表会では実習内容をうまくまとめることができた	24.1	51.1	19.9	5.0
成果発表会ではうまく発表できた。	22.5	42.8	28.3	6.5
全体として科目「インターンシップ」は自分のためになった。	52.8	37.3	4.9	4.9
この実習を通して家で将来について話す機会が増えた。	26.1	43.0	21.1	9.9
この実習は社会に出てから役に立つと思う。	49.3	35.9	9.9	4.9

H26年度 派遣実習生徒アンケート結果

	A (%)	B (%)	C (%)	D (%)
事前学習は十分できた。	45	45	9	0
専門的な技術を学ぶことができた。	64	36	0	0
目上の方とうまく対応できるようになった。	64	36	0	0
実習日誌をうまくまとめることができた。	27	55	18	0
この体験を将来のために生かすことができそうだ。	82	18	0	0
成果発表会では派遣実習の成果をまとめることができた	45	55	0	0
成果発表会ではうまく発表できた。	27	55	18	0
全体として科目「派遣実習」は自分のためになった。	73	27	0	0
この実習を通して家で将来について話す機会が増えた。	36	55	9	0
この実習は社会に出てから役に立つと思う。	55	36	9	0

個別の進路実現プロジェクト・2014対象生徒一覧

取扱注意



2014年度 3年

番号	名前	居住地	進路	療育手帳	ケース会議の枠組み	保護者	進路先
1	* * * *	* * * *	未定		・市発達支援センター ・(****) ・(働き暮らし**) ・(テクノ)	○	
2	* * * *	* * * *	就職		・****支援センター ・(働き暮らし**)	○	***
3	* * * * *	* * * *	進学		・市発達支援センター ・(****) ・(働き暮らし**)	○	***
4	* * * *	* * * *	進学	○	・(市福祉課、労政課) ・(働き暮らし**)	○	***
5	* * * *	* * * *	進学	○	・市発達支援センター ・(****) ・(働き暮らし**) ・****支援センター	○	***
6	* * * *	* * * *	進学	○	・市発達支援センター ・(****) ・(働き暮らし**) ・****支援センター	○	***
7	* * * *	* * * *	進学		・市発達支援センター ・(****) ・(****)	○	***
8	* * * *	* * * *	就職		・市発達支援室 (障がい福祉課他)	○	***

養護学校との連携

	生徒	検査実施日	結果返し	検査者
1	2年 Y	5月15日	6月9日	草津養護 **先生
2	3年 M	3月18日	6月3日	草津発達セ **先生
3	1年 S	6月16日	7月4日	草津養護 **先生
4	1年 N	7月14日	9月30日	草津養護 **先生
5	3年 A	9月19日	10月21日、12月15日	近江八幡発達セ **先生
6	2年 Y	9月22日	10月3日	草津養護 **先生
8	1年 M	11月13日	12月22日	草津養護 **先生
9	1年 N	11月17日	12月11日	草津養護 **先生
10	1年 O	12月11日	12月22日、1月28日	草津養護 **先生
11	2年 M	12月11日	12月22日	草津養護 **先生
12	2年 N	12月18日	1月29日	草津発達セ **先生
13	1年 A	1月28日	3月12日	草津養護 **先生
14	1年 Y	2月6日	3月12日	草津養護 **先生
15	2年 T	2月10日		大津市やまびこ支援センター

※ 現在、野洲養護学校とも連携。

授業改善取り組み結果

名前	参考にされた本	その他の場合は本のタイトルや参考先等を具体的に書いてください	参考にしたページや内容	何をする予定か (簡潔に記入してください)	実践前の状況 (簡潔に記入してください)	
A	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般（多くの箇所）	各行事で講師を生徒に聞かせる。	集会時生徒が集中して話をきけない。	
B	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編	滋賀県人教・研究紀要	授業及び個別面談。	話の途中で寝てしまう生徒がいる。	
C	6	その他	教師のすごい！会話術	p.8, 9 p.72, 73他	生徒に気持ちを伝えるとき、言葉を工夫する。	自分の気持ちが十分に生徒に伝わらず、行き違いが生ずることがあった。
D	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般（多くの箇所）	予定を明示し、生徒個人が何をすべきか、見通しの立てやすい状況にする。	「次にすべきこと」が分からず、授業やSHRに集中できずに騒がしくなっていた。	
E	4	通常学級での特別支援教育のスタンダード	全般（多くの箇所）	落ち着きがなく着席できない生徒への声かけ。文章を集中して読めない生徒への配慮。	授業中立ち歩く。細かな文章を読んでも理解できない。	
F	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術	歴史の使い方	全般（多くの箇所）	社会科は暗記科目でつまらないと考える生徒が多い	
G	6	その他	ホワイトボードで学級が変わる!! 話し合い活動ステップアッププラン		反応がなく授業に参加しているかどうか不明な生徒がいる。また、数学が苦手に取り組む気になれない生徒もいる。	
H	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般（多くの箇所）	集会の時などにしっかりと並び、聞かせる。	集会など全体が集まるとき、しっかりと並べない。聞かない状況であった。	
I	6	その他	できる子に伸ばす行動と学習の支援	1時間に一回は必ず指名をする。	授業を円滑にする	授業での、コミュニケーションが円滑でない。
J	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般（多くの箇所）		一日の予定をうまく聞き取れず、困ってしまう生徒がいる	
K	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		全体説明と個別指導	落ち着きがなく、理解できない生徒がいる。	
L	6		ADHA 子どもが輝く親と教師の接し方	191～しつけの原則	気持ちを受け止める。拒否的、批判的、支配的にならない。子どものペースに合わせる。突き放さないこと。	うまく関係を創ることができずに、話を聞こうとしない。反抗的になり、自分を省みることができない。
N	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		P18、19、24、25	説明を簡単にわかりやすくする説明の順序を考える	耳からの情報は得にくいと考えられる（聴くことが苦手）
M	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般（多くの箇所）	授業で生かす		今日の授業の大事なところがわからない
O	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		面接練習で、質問への答えを整理する。	表情が堅く、質問に対する内容を答えることができない。	
P	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		P148～151	実習時、全体説明の後、個別に説明をし、作業が具体的に理解できるようにする。	実習内容が理解できず、質問もできず、待っている生徒がいた。
Q	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編			配布プリントの番号を大きく、名前を書く位置など体裁をそろえ、パターン化する。	家庭総合を担当二人で実施していることにもより、二人でそろえたつもりでいても、番号の振りや名前を書く位置が違うことがあった。
R		教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編			毎時間配布の授業プリントのフォント、大きさや書式を統一改善する。	科目毎に毎日のプリントを整理して、保存し再提出などがおそろになっていた。
S	2	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	p.44, 54, 66, 70他	各授業や実習指導に生かす。		先生は適当に話している
T		言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術	全般	授業及び実習に生かす。		今日の授業での目的を考えていない。
U	4	通常学級での特別支援教育のスタンダード	全般	授業、実習、各種説明会に活かす。		生徒を始め、話す対象になる人が全員理解できたか不安である。
V	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編	全般	授業・実習等に活かしていく。		何をどのように支援していけば良いか、わからなかった。

どこで活用するか ①	どこで活用するか ②	実践後どうだった のか	改善された点、変わらなかった理由など具体的に
1 朝の打ち合わせ	6 LHRや特活	5 よくなった	生徒が集中して話を聞くようになり、話の内容に反応して学校生活に取り組むようになった。
4 教科指導で	6 LHRや特活	4 少しよくなった	話だけでなく目からの情報を提示することで、寝る子は減ってきた。
4 教科指導で	個人面談で	5 よくなった	生徒を指導するとき、その意図をうまく伝えるにはどうすればよいが常々考えていた時、本書にあった「具体」「五感」という言葉が大いに参考になった。生徒に声をかけるときは、いつも言い方に工夫をし、自身の感性や表現力を磨いていきたいと思う。また生徒の的確な発言や表現に接した際、本書にあったように「メモを取る」ことで賞賛の気持ちを伝えることは効果的だと思った。
3 朝のSHR	4 教科指導で	5 よくなった	朝のSHRには連絡事項を記入したホワイトボードを持って行き、「日付」「その日の授業での連絡」「そうじ」「翌日の連絡」などを示した。加えて、月ごとの行事予定表も個人別に配布し、「自分のことは自分で管理する」という姿勢が身に付いてきたように思う。授業の時も、やるべきことや書くべきことを最初に明示することで混乱することなく、落ち着いて授業に取り組めるようになってきた。今後もさらに改良して、「自分のスケジュール管理をして、計画的に準備する」ことの大切さが実感できるような生徒に育てていきたい。
4 教科指導で	# N/A	5 よくなった	なかなか着席できない生徒に常に声かけをして、座れるようになったら褒めてやると自然に座れるようになった。黒板の字はなるべく大きな字で書き、重要なことには色を使う。テスト問題もなるべく大きな字で見やすいように工夫した。
4 教科指導で	4 教科指導で	5 よくなった	歴史の流れを意識し、それが現在どのような形で現れているかを毎時間とりあげた。日本史については「草津」「滋賀」を数多く取りあげ、授業内容と結びつけた。世界史については時事問題の原因を歴史からさぐるようにした。「何々がありました」という授業ではなく、「こういうきっかけで、このようになった」「こうなったことで、今こうなっている」という話し方にこだわって授業を展開した。ノートに豆知識をメモをする、授業に関する質問をする生徒が増えてきた。歴史に興味を持つ生徒が増えてきたと感じる。
4 教科指導で	5 教材	5 よくなった	ホワイトボードを全員（分割授業です）に配布。みんなが苦手な文章問題の導入でホワイトボードに絵を描かせ、見せ合った。わからない生徒にはSOSを書かせ、わかっている生徒に聞くようにし、みんながみんなでき取り組むことができた。その絵から式に導くときも非常に興味を持って進むことができた。また、筆手や発表をしない生徒も自分の描いた絵をアピールし関心をもって取り組んでいることがわかった。ホワイトボードには磁石がついてるのでスマホは危険だからと注意すると全員カバンに片付けた。
7 生徒への連絡	3 朝のSHR	5 よくなった	マズローの「承認欲求」を満たすためにまず、明確に「何をすれば認めてもらえる」というゴールを示した。具体的には集合の際、どこに並ぶのかを示すコーンを立て、ゴールとして集合までの時間を計った。また、結果のみならず前回のプロセスを認め、子どもたちのやる気を安定させた。集合時のざわつきに対しては、大きな声で「静かにしなさい」ではなく、むしろ静かな口調で話し、【無音の間】をもつことで驚くほど静かになった。また、このプロセスもはめることで、自分たちはどのような集まりでもしっかり集合し、静かに出来るという自信をもったように思う。今後は生徒たち自らが前に立ち、自分たちで並んで聞ける状況を作れる環境を作りたい。
4 授業		5 よくなった	以前は座席で欠席のみの確認の出席をとっていたが、欠席者が少なくても、一人一人呼名することを、毎日繰り返すことで、1対多数から、1対1の関係に近づくことができた。一人一人の生徒と触れ合う機会が少ない授業であっても、出席の仕方一つで生徒との距離が近づくのを実感できた。
3 朝のSHR		5 よくなった	ホワイトボード等を活用しながら、今日何があって、いつに何をすべきなのかを丁寧に連絡できるようにした。生徒も、少しずつではあるが一日を計画立てて過ごせるようになった。
4 教科指導で		5 よくなった	大きな声でゆっくり話をするにより、生徒の理解が進んだ。
4 教科指導で	3 朝のSHR	5 よくなった	ゆっくりではあるが、自分の気持ちに折り合いをつけ、活動に迎えるようになってきた。大切なことについて、話を聞くことができるようになった。
いかなる場面でも		4 少しよくなった	授業でのホワイトボードの活用は、今日の授業で何をするのかわかり、見通しが立てやすく、生徒も比較的安心して授業に取り組めたと感じる。SHRなどでは長く話すよりも短く簡潔に説明した方がわかりやすい。全体指導で話を聴かない生徒は、なかなか変わりにくい。
		5 よくなった	指示を受け止め理解し、行動できるようになった。
8 面談		5 よくなった	目前に就職・進学面接を控えている生徒に対しておこなったため、感情を込め抑揚をつけて話すことができるようになった。また、質問に対する答えも、少しずつ言うことができるようになった。
4 教科指導で		5 よくなった	生徒が個別の実習指導で、具体的な説明を理解し、授業内容がより理解できるようになった。また、質問も多くなった。しかし、必ず自分に個別に説明があると思い、全体説明をしっかり聞けない生徒もおり、対応に苦慮する。
4 教科指導で		5 よくなった	生徒はファイルを整理しやすくなり、こちら側も授業でもどのプリントに取り組むか等指示しやすくなった。しかしその一方で、世の中のプリントがすべて同じ体裁であるわけではなく、色々なパターンに対応できる力を身に付けさせることも必要。
4 教科指導で		5 よくなった	毎時間のプリント学習、提出、保存、整理を要求していたので、今回の工夫でプリントの分別や整理がしやすくなったようである。さらに、欠席時のプリント確認に必ず声掛けをしたことも成果が現れたようである。
4 教科指導で	8 面談	4 少しよくなった	生徒が興味を持って話を聞くようになった。誤ったことが判明した時に生徒にその話をする素直に聞いてくれ、特に突っ込んでくるようなことはなかった。保護者にもあらかじめ予想されるリスクについて説明しておく、特に苦情はなくスムーズに相談でき改善の方向に向かった。
4 教科指導で	4 教科指導で	5 よくなった	生徒が授業での目的を持って作業が出来るようになった。専攻班での実習では、目的を持って、作業が出来るようになった。
4 教科指導で	11 校内外の説明会	5 よくなった	実習では、作業内容を実演や演示を多くすることにより、より具体的にイメージできるようになった。各種の説明会では、聴衆者の様子を常に確認し、声量の調整や話すスピード、話題の選択等常にこちらに目を向けるよう工夫し、できるようになった。
4 教科指導で	5 教材	4 少しよくなった	少しだけではあるが、その生徒の特性を考え、またそれに合わせた指導や対応ができるようになった。

名前		参考にされた本	その他の場合は本のタイトルや参考先等を具体的に書いてください	参考にしたページや内容	何をする予定か (簡潔に記入してください)	実践前の状況 (簡潔に記入してください)
W	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		p20, 78, 104, 108	質問、発言を考え、実習、座学に活かす	ちょっとしたことにも「ありがとう」など自分より生徒のほうが相手を気遣う能力が高い。
X	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		p184	保護者との対応に生かす	対応するときどのように話せばいいか、困っていた。
Y	2	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		p.44, 54, 66, 70他	実習指導に生かす。	実習の安全性・効率面を考え話している。
Z	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		p98, 130	生徒をほめる	あまり生徒をほめることがない。
AA	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編			生徒をほめる	あまり生徒をほめることがない。
AB	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		p.52～63	生徒理解を目指す	こちらが伝えたいことを一方的に、話していることがよくある
AC	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編			配布プリントや板書は日付を書き、時系列が分かるようにしておく。	どの時期に何を学習したか生徒も分かりづらく、プリントの整理もなかなかできないところがあった。
AD	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		P148～155	タイミングやボリュームでそれぞれにあった声かけや合図を行う。	全体への連絡のことだけを考えていた。配慮が足りていなかった。
AE	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編			生徒理解	生徒の状況が分からない。
AF	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		全般	配布物の書式の統一により見やすくする	書式は統一されていなかった
AG	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術			朝のSHRできちんと話を聞いてもらえるよう徹底する。	朝のSHRなど騒がしく、話を聞いてもらうのに生徒の気持ちを向かすことが難しかった。
AH	2	授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術		リズムとテンポに気をつける	メリハリをつけて話す。	結論を話すまでが長く間延びした話し方をしている。
AI	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般（多くの箇所）	生徒が自分の存在を肯定的に感じ、主体的に次に進むべき方向を探れるような具体的な意図を含む関わりを持つ。	日常の関わりの中で、効果的に関われない、もったいない場面が多々あった。
AJ	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般（多くの箇所）	実習において全体の流れを説明後具体的に一つ一つの作業を細かく区切って理解させながら進める	全体説明時には集中力が弱く、説明が十分理解されていない
AK	6	その他	学ぶ はたらく つながる。（かもがわ出版）	全般	自分の行動に見通しがつくようにする	職業観、勤労観に乏しいものがある。
AL	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	自分の行動に見通しがつくようにする	実習等で他の班の作業や時間、次の内容を気にするばかりで集中できないことが多い。
AN	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	周囲の状況を把握し、一歩先を見越せるようにする	実験や実習時に、自分以外の周囲の状況に気を配らず、作業が始まってから質問対応で先に進めない。
AM	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	周囲の状況を把握し、一歩先を見越せるようにする	実習等で他の班の作業や時間、次の内容を気にするばかりで集中できないことが多い。
AO	4	通常学級での特別支援教育のスタンダード		全般	授業中、生徒の特性をよく考え対応する。	実習内容を理解できず、集中することができない。
AP	3	教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編		全般		実習説明後、すぐに、何をするの？といって、何を今からするのかわからない生徒が多い。
AQ	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	生徒個々の対応をしっかりとする	
AR	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	生徒の様子を見、声かけをする。	それぞれが、自分の思いで勝手な行動をすることがある。
AS	1	言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術		全般	生徒の様子を見、声かけをする。	集合時整列することも困難なことがあった。

- 1 言い方ひとつでここまで変わる教師のすごい！会話術
- 2 授業がうまい教師のすごいコミュニケーション術
- 3 教室でできる特別支援教育のアイデア中学校・高等学校編
- 4 通常学級での特別支援教育のスタンダード
- 5 キレやすい子へのソーシャルスキル教育－教室でできるワーク集と実践例
- 6 その他

どこで活用するか ①		どこで活用するか ②	実践後どうだったのか	改善された点、変わらなかった理由など具体的に
4	教科指導で		4 少しよくなった	こちらもちよっとした生徒の行動に「ありがとう」といえるようになった。「プリント音読後に感想を書いて提出物扱いにします」、クイズ形式の質問をしてみるなどにより、生徒を授業に参加させるとともに、多少はわかるなど生徒に自信をつけることができた。しかし、生徒発言に対し、評価、褒めるなどさらに自尊感情を高めるような言葉をすぐに発することはなかなかできなかった。
9	保護者への連絡	8 面談	4 少しよくなった	自信を持って話ができるようになった。できることとできないことがはっきり言えるようになった。
	教科指導で	面接	5 よくなった	誤ったことがわかったときに生徒にすぐに、説明すると素直に聞く様子が見られた。該当する生徒の担任にあらかじめ予想されるリスクについて説明しておく、特に苦情はなくスムーズに相談でき、改善の方向に向かった。その後の授業においても生徒が興味を持って話を聞くようになった。
3	朝のSHR	6 LHRや特活	4 少しよくなった	意識をして生徒たちの頑張りを褒めるようにした。「あたりまえ」と感じることに、「ありがとう」「頑張ったね」と声かけられるようになった。今後も一人一人をさらに丁寧に見て、声かけしていく。
3	朝のSHR	8 面談	5 よくなった	個々に話をするとき、表に現れない本人のがんばりを褒めるようにし、いつも見ているよというメッセージを伝える。生徒にとって、見ていてくれるという安心感が気持ちを前向きにしているのか、私の話に耳を傾けるようになり、自分の思っていることも話せるようになってきている。
3	朝のSHR	4 教科指導で	4 少しよくなった	まだまだ、伝える指導になっているが、気にかけるようになった。生徒の悪い反応・良い反応などもたくさん出てきた。
4	教科指導で		5 よくなった	欠席したときのプリントや配布したプリントをなくしたときなど、どのプリントがないのかが生徒も分かりやすくなり、整理しやすくなった。
4	教科指導で	7 生徒への連絡	4 少しよくなった	生徒への気づきのタイミングや、提示の方法をいくつか試すことが出来た。
	黒板		3 変化なし	字を大きく書く。支援生徒をどのように指導していくか考えていく。
	教科指導		4 少しよくなった	書式の統一により、使いやすくなったように感じる。今後、保存のしやすさも検討したい。
3	朝のSHR	6 LHRや特活	5 よくなった	朝のSHRで生徒のできている良い所を褒め、気持ちを前向きにした後、個々が持っている課題・改善点等を話す。1日穏やかに過ごせるように気持ちを持っていけるようにする。
4	教科指導で		5 よくなった	書き言葉で話すように意識しました。今後は短い文章で話すことを意識したい。こちらの意図することを理解してもらえように気をつけたい。
15	校内での日常的な会話場面	8 面談	4 少しよくなった	日常の会話場面でも、個々に応じた言葉を選ぶよう意識した。相談場面では、生徒と共に現状と今後の対応策を具体的に検討した。その結果をもとに、関係職員と多方向から生徒に関わる次の支援につながる機会が増えた。
4	教科指導で	7 生徒への連絡	5 よくなった	全体説明時には厳しく指導し、集中力を上げるようにした。結果少し落ち着いて聞けるようになり、理解も深まったように感じる。具体的な作業は細切れな指示になることから、全体理解にはまだ少し時間がかかりそうだ。
4	実習指導		4 少しよくなった	高校生を中心とした就職困難の時代に何が必要とされているかを考えさせる。キャリア教育やインターンシップ等の体験で働くことの大切さを学ぶことができたのではないかと思います。また、この体験を学校の実習にフィードバックさせてくれたと感じます。
4	実習指導	クラブ活動	4 少しよくなった	事前に内容を明示することで改善されたところはあるが、急に内容が変更になるなどすると慌てることがあった。また、時間配分を明示するなどした場合はその時間に固執してしまう傾向があった。実習などでは急な変更もよくあるので慌てることがないよう指導していきたい。
4	実習指導	7 生徒への連絡	5 よくなった	黒板に図解で実験や作業内容を書き示し、話をする前は、一度作業を完全にストップさせてからゆっくり身近な例を挙げながら説明するよう努めた。周囲の友達などの動向も少しずつではあるが反応するようになったので、同じ質問を何度も受けることは格段に減った。
4	実習指導	クラブ活動	5 よくなった	生徒の様子をみて、何か感じた時、個別に声かけをし話をするることにより、生徒との会話が進み、生徒の気持ちを聞き出すことができた。
4	実習指導		4 少しよくなった	今まで集中できなかった生徒が、実習に積極的にいかれるようになった。
4	実習指導		4 少しよくなった	実習作業を細かく区切りながら実技説明を全体と個別にすることで、実習内容を理解し安全にしっかり作業を行えるようになった。
4	図書館指導	日常	5 よくなった	自分ととても参考になり、生徒とのコミュニケーションがうまくとれるようになった。
4	実習指導		5 よくなった	生徒の様子をみて、何か感じた時、個別に声かけをし話をするることにより、生徒との会話が進み、生徒の気持ちを聞き出すことができた。
4	実習指導		5 よくなった	生徒ひとり一人目を配れるようになり、生徒のゆっくりながら指示を理解し行動できるようになった。
1	朝の打ち合わせ		5 よくなった	
2	教職員への連絡		4 少しよくなった	
3	朝のSHR		3 変化なし	
4	教科指導で		2 少し悪化した	
5	教材		1 悪化した	
6	LHRや特活			
7	生徒への連絡			
8	面談			
9	保護者への連絡			
10	保護者対応		208	
11	その他具体的に		46	

「キャリア教育・就労支援」啓発映画会について

滋賀県立湖南農業高等学校

1 目 的

現在、文部科学省の研究指定を受け、特別支援学校や労働・福祉の関係機関からなる就労支援ネットワーク会議を設置し、関係機関と有機的な連携を図りながら、生徒個々の状況に応じた支援を行うほか、高等学校段階における系統的なキャリア教育の充実を含めた、校内体制の整備を図っている。

この一環として「キャリア教育・就労支援」啓発講演・映画会を実施し、将来を見据えたキャリア教育を行うことにより、生徒の勤労観や職業観を育成し、また、保護者へは啓発活動の一助とする事を目的としている。

2 日 時

平成27年1月29日（木） 10：00～13：00

3 場 所

栗東芸術文化会館さきら
栗東市糺二丁目1番28号
TEL 077-551-1455

4 参加者

全校生徒および教職員、保護者約550名

5 内 容

「銀の匙」 配給東宝

story

進学校に通いながらも挫折し、逃げるよう大蝦夷農業高校に入学した主人公が、将来の目標や夢を抱く同級生達に劣等感を感じつつ、実習や部活に悪戦苦闘の日々。北海道の雄大な自然とニワトリ、ブタ、牛、馬、そして個性豊かな仲間たちに囲まれた常識を覆す農業高校の生活の中で、主人公は悩み、戸惑いながらも次第に自分なりの答えを見つけ始める。そんなまじめで正直な主人公に新たな難題が立ちはだかっていく。

銀の匙生徒アンケート

	1				
	5	4	3	2	1
1 - 1	16	13	5	0	2
1 - 2	11	13	4	0	1
1 - 3	9	11	9	0	1
1 - 4	6	19	6	0	0
2 - 1	7	13	7	1	0
2 - 2	12	14	7	0	0
2 - 3	13	14	4	0	0
2 - 4	2	9	7	0	0
	76	106	49	1	4
					236
	4.1				

銀の匙教員アンケート

	1				
	5	4	3	2	1
教員	17	11	1	0	0
	17	11	1	0	0
					29
	4.55				

5：とても良かった

4：良かった

3：普通

2：あまりよくなかった

1：よくなかった

生徒の感想（抜粋）

1 印象に残った場面・共感したシーンは

- ・豚がベーコンになるシーン・馬のレース場をつくるシーン
- ・ブタドンの肉を買うシーン・最後のシーン
- ・自分たちが育てた豚をみんなで食べるシーン
- ・レース場づくりに他の生徒たちも協力してみんなでやるシーン
- ・学校で馬のレースをするシーン・文化祭での友情シーン
- ・「家畜は経済動物」という言葉・友達が離農する所
- ・銀のスプーンの意味がわかったシーン・乗馬レースでヒロインが優勝するシーン
- ・主人公のお父さんがレースを見に来ていた所

2 農業を学んでよかったと思うことは何ですか？

- ・命の大切さ・普通科で学べないことを学べる・食べ物のありがたさがわかる
- ・「食」の大切さ・自然に触れあえる・作物を育てられる・感謝出来るようになった
- ・友達と協力出来る・実習が楽しい・手に職を付けられる・たくさん土に触れられる
- ・木に詳しくなった・技術が学べる・心が豊かになる・将来の選択の幅が広がる。
- ・体力がついた・いろんな出会いがある・自分を成長させることができる。
- ・食べ物を育ててみてそのすばらしさを実感した・これからの人生に役立つ。
- ・専門を生かした職に就ける・将来のことを考えられるようになった。
- ・自分が作ったものが作品として残る。・生きることそのものにつながる。
- ・過程をしっかり見られる・結果をすべて自分で受け入れなければならない。
- ・農業を学ぶ中で思いやる心を養える・失敗と成功が目に見えて現れる。
- ・農業を通して自分を成長させることができる。

3 悩みがあったとき誰と相談しますか。

- ・友達 ・親 ・家族 ・担任の先生 ・T先生 ・誰にも相談しない
- ・部活動の先輩や仲間 ・母 ・父 ・姉 ・妹・弟 ・ヤフー知恵袋
- ・SNSを通して友人と相談 ・自分で考える ・アルバイトの先輩
- ・祖母 ・恋人

4 友達や家族が困っているときはどうしますか？

- ・話を聞く・自分のできる範囲で助ける。・解決できそうな人を探して助けを求め
- ・自分にできることを考える。・愚痴を聞く・相談に乗る・助けたいと思うが何もしない。
- ・悩みを聞いて一緒に解決する・自分も一緒に悩む・そっとしておく
- ・相手が話してくれるまで待つ・「相談して」という・見ないふりをする。
- ・そばにいる・自分で助けられないなら助けを呼ぶ・無理に聞き出さない。
- ・その人に合った方法で対応する・黙って手伝う・つらそうだったら声をかける。
- ・できるだけそばにいて、精神面で支える。

5 働くことはどういうことだと感じましたか？

- ・大変だけれどその分うれしいこともたくさんある・簡単なことではない。
- ・苦勞すること・日々学ぶこと・自分が生きていくために大切なこと
- ・誰かの役に立つこと・生きるためには必要なこと
- ・色々なことの積み重ね、他の人を笑顔にすること。
- ・お金をもらうという意識を持つこと・色々なことを知ること。
- ・社会に貢献すること・お金を稼ぐこと・楽しいだけではやっていけない。
- ・自分の居場所を見つけること・家庭を保つこと・生きること・当たり前のこと
- ・社会に貢献すること・しなくてはならないこと・責任を負うこと。
- ・充実感がある・経済を動かす・真剣になること・自分の新しい道をつくること。
- ・人間関係をつくること・夢をつかむこと・つらいけれどやりがいがあること。
- ・大変なこと・日本のためになること・しんどいけれど楽しいこと。
- ・達成感を感じる・自分で考えて動くこと・自分探し・親のありがたみがわかる。
- ・色々なことを背負うこと・周りの人たちと協力し合って物事を成し遂げること。

教員からは

- ・つらいこともあるが学ぶことも多い・勤め・生きること・社会貢献・責任・やり甲斐
- ・自分の生き様を表現する・生活の糧・人生をより豊かにするもの
- ・生き抜くために必要なこと・社会の中に自分の居場所を作る・自分を成長させる
- ・誰かの役に立つ事・生きがい・次の世代に願いを託す・次の世代を育てる
- ・自分の存在価値の確認ができる
- ・人に必要とされていると感じることができる

- ・ 人生の意義を見つける・一番の苦行・何かを得るために努力すること
- ・ その道で自分を磨いていくこと
- ・ 自分や家族のためにがんばってやること

6 夢を見つけるために必要なことは何だと思います。

- ・ 挑戦する・目標を立てる・自分を見つける・自分の意志・努力と運
- ・ まずは色々なことを知る・諦めない・色々な体験や人とのつながり
- ・ 何事も一度やってみる・冒険して一歩前に出る
- ・ 夢を抱き続ける・経験と知識と好奇心・自分にできることから始める・しっかり考える
- ・ 自分の好きなものを見つける・学校生活をがんばる・希望を持つ
- ・ やるべきことをしっかりやる・何にでも好奇心を持つこと・色々と知って考えること
- ・ 色々なことに挑戦する・自分の得意なことを見つける・興味を見つける
- ・ 一つ一つの物事に真剣に取り組む・経験を積む
- ・ さまざまな視点から考える・何になりたいのかを考える・自信
- ・ 何かできることを考える・どんなことでも体験する勇気を持つ
- ・ 自分の意志・今を楽しく過ごす・学習、経験を積む・あきらめない心
- ・ いろいろな職業を知る・前を向く・物事をよく見て考える・考えるより行動する
- ・ 努力・自分のしたいことを見つける。・この先どうしていくかを考え続ける
- ・ いろいろな経験、自分のやりたいことをやる・希望を捨てないこと・現実を理解する
- ・ 何事も頑張ること・興味をもつ・好奇心・出会い・運・得意なことを見つける・お金
- ・ いろいろなことに挑戦する・観察力・人脈・その過程をつかむ・今を一生懸命生きる
- ・ 資格を取る・学校に通う・想像力・調べること・行動力と思い切りのよさ
- ・ 勉強して周りの世界を知る・毎日を一生懸命生きる・趣味や生き甲斐を見つける
- ・ 自分から動くこと・簡単なことからやってみる・多くの人や物と出会うこと
- ・ 自分の性格を知ること・自分の心を大人にする・見聞を広める・毎日を楽しく過ごす
- ・ 想像力・周りの支え・毎日戦う・いろいろな人と出会って話を聞く・何事も全力でする
- ・ 生き続ける・情報収集・自分を見つめ直す・さまざまな仕事を見る

教員からは

- ・ 努力・自分がやれることを全力でする・いろいろとやってみる・日々懸命に生きる
- ・ 趣味を多く持つ・何かに挑戦する・自分がやりたいと思うことからを見つける
- ・ 日々の生活の中から見つけた小さいものを集約させる・一つのことに打ち込む
- ・ 若いうちにいろいろとチャレンジする
- ・ 興味を持つ・一日一日を大切に生きる・好奇心・自分を知る・積極的に行動する
- ・ みんなと協力して一つのことを為し遂げる喜びを感じ取る
- ・ 自分が好きな事を見つける・探究心・目の前の現実に関心を持って向き合う・生きること
- ・ きっかけとなる出来事や人物に出会う・目標を持つ

- ・自分にできることを継続してやり続けていく・調べたり行動したりして知見を広める
- ・お腹にためず思いを伝える・いろいろな人に出会う・世の中にいろいろな接点を持つ
- ・希望を持つ

7 自分の良いところはどこですか。

- ・思ったらすぐ行動できる・思いやりがある・一つのことに夢中になれる・責任感が強い
- ・明るく前向き・やるときはやる・聞き上手・明るく元気・人に優しくできる
- ・人のことをよく見ている・気配りができる・貯金ができる・最後まで諦めない
- ・よく笑う・負けず嫌い・わからない・落ち着いている所・心が広い・粘り強い
- ・優しい・笑顔・かわいらしさ・気を遣う所・まじめな所・集中できる・よく笑う
- ・頑張り屋・明るい・好きなことには夢中になれる・自分の意見を言える
- ・挨拶ができる・差別をしない・感情が豊か・何事も夢中でできる・わからない・素直
- ・夢がある・人の悩みを聞ける・何事もやりきる所・思いやりがある・笑顔が多い
- ・マイペース・思慮深い・気遣いができる・日々楽しく過ごしている
- ・前向き・部活動をがんばっている・優しい・何事も一生懸命がんばる
- ・責任を持って取り組む・決めたことは実行する・いつも笑顔でいる・動物を大切にする
- ・よく食べる・他の人に左右されない・誰とでも仲良くできる・暢気・声が大きい
- ・仕事が速い・まじめ・よく笑う・困っている友達の相談に乗る・人の話をよく聞く
- ・一つのことに集中して取り組める・話題づくりが上手・多趣味・「ありがとう」を言える
- ・他人と仲良くできる・最後まで諦めないところ・小さいことを気にしない・分からない
- ・友達思い・明るく何事にも積極的・お人好し・他人のことにむやみに入り込まない
- ・人の話を聞いて相談に乗ってあげられる・がんばる所・悪いことはすぐに忘れる
- ・切り替えが速い・わからない・無い・一生懸命頑張る所・人を笑わす・にこやか
- ・仕事をやりきる・他人の考えを優先できる・思いやりがある・サバサバしているところ
- ・ダンスが上手・優しい・スポーツ万能・周りをよく見る・物静か・打たれ強い

教員からは

- ・まじめ・優しさ・柔軟な考え方ができる
- ・その状況での最高と最悪をイメージして行動できる・一芸があること・努力家
- ・信念がある・諦める時は早い・一途に取り組む・負けず嫌い
- ・最後まで諦めずに取り組む・明るく前向き・こつこつと励む・
- ・逃げずに直球勝負する・冷静・声が大きい・あっさりしている・「バカ」になれる
- ・わからない・誠実・ものを大切にする・はっきりしている・自分の存在自体
- ・よく考えて行動する・自己抑制して平常心を保つ・健康・忍耐力・現実的思考
- ・何にでも興味を持ち挑戦する・体力がある

生徒の自尊感情について（楽しい学校生活を送るためのアンケートより）

生徒の入学時とその後においての、楽しい学校生活を送るためのアンケートを実施し、その変化を考察してみた。

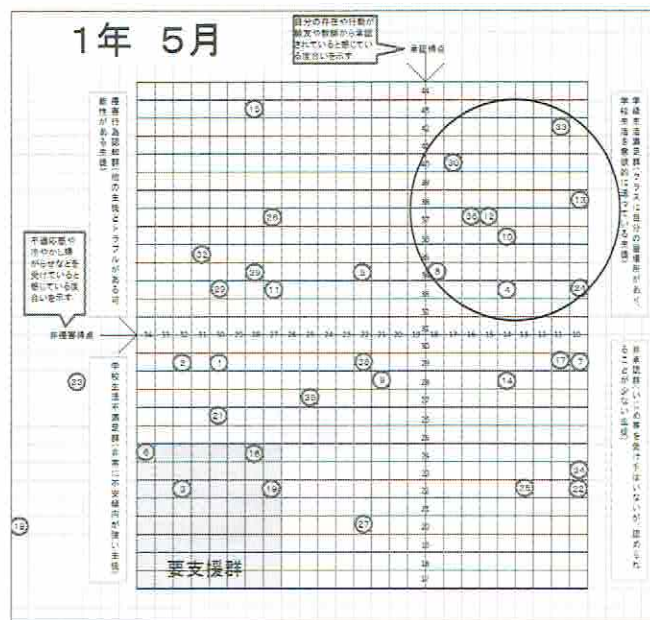
2年 組 番 氏名 _____

質問に対して、自分の気持ちに近い**数字に○**を付けてください。

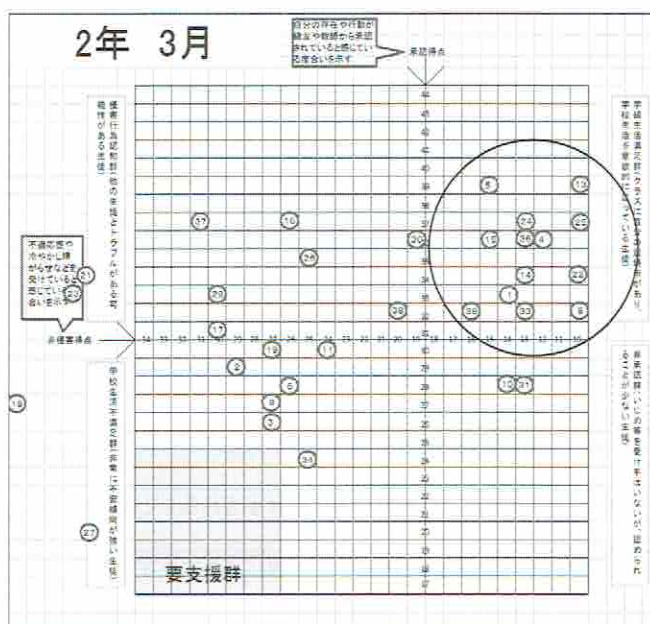
とても 少 少 どちらとも あまり 全く
 そう思う そう思う 言えない そう思わない そう思わない

5 ——— 4 ——— 3 ——— 2 ——— 1

No	項目	
1	私は、勉強や運動、特技やひょうきんさ（面白さ）などで友人から認められていると思う。	5-4-3-2-1
2	私は、クラスの中で存在感があると思う。	5-4-3-2-1
3	私は、クラスやクラブ活動でリーダーシップをとることがある。	5-4-3-2-1
4	仲の良いグループの中では中心的なメンバーである。	5-4-3-2-1
5	私は、学校・クラスでみんなから注目されるような経験をしたことがある。	5-4-3-2-1
6	学校生活では充実感や満足感を覚えることがある。	5-4-3-2-1
7	わたしは、クラスで行う活動には積極的に取り組んでいる。	5-4-3-2-1
8	学校内で私を認めてくれる先生がいると思う。	5-4-3-2-1
9	在籍している学校に満足している。	5-4-3-2-1
10	学校内に自分の本音や悩みを話せる友人がいる。	5-4-3-2-1
11	私は、クラスの人から無視されるようなことがある。	5-4-3-2-1
12	私は、クラスメートから耐えられない悪ふざけをされることがある。	5-4-3-2-1
13	私は、クラスやクラブでからかわれたり、バカにされたりするようなことがある。	5-4-3-2-1
14	私は、授業中に発言をしたり先生の質問に答えたりするとき、冷やかされることがある。	5-4-3-2-1
15	私は、クラブなどの仲間から無視されることがある。	5-4-3-2-1
16	私は、クラスの中で孤立感を覚えることがある。	5-4-3-2-1
17	クラスで班をつくるときなど、なかなか班に入れず、残ってしまうことがある。	5-4-3-2-1
18	私は、クラスの中で浮いていると感じることがある。	5-4-3-2-1
19	私は、休み時間などに1人であることが多い。	5-4-3-2-1
20	私は、クラスにいるときやクラブ活動をしている時、周りの目が気になって不安や緊張を覚えることがある。	5-4-3-2-1



本校2年の1クラスのアンケート結果である。入学時、学級生活に満足群(クラスに自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている)生徒が39名中9名、学校に不満足であり支援を要するものは5名であった。



2年3月調査では、満足群13名、要支援群1名と分布が右上に集まっていく傾向が見受けられ、生徒同士が互いの存在を認め合う親和的な人間関係が築かれ、主体的にいきいきした学級形成が行われていることを示している。

このデータから、本校2年生は、9月にインターンシップを経験し、体育祭・文化祭等の大きな行事をこなし、修学旅行や映画鑑賞で成功体験を経験し、クラスづくりや仲間づくり、人権教育など取り組んだ結果、生徒の自尊感情はかなり高まっていると考えられる。

第1回教員研修資料

平成26年度「キャリア教育・就労支援等の充実事業」

「インクルーシブ教育について」

滋賀県立湖南農業高等学校教員研修
平成26年（2014年）8月1日
湖南市発達支援室 大濱早苗

本日の内容

- ・「インクルーシブ教育システム」とは
- ・システム構築に関連するデータベース
- ・基礎的環境整備と合理的配慮
- ・発達障がいとは
- ・インクルーシブをめざした授業づくりの例
- ・「自己理解」の取組例

「インクルーシブ教育システム」 背景

障害者権利条約

（平成18年12月13日、第61回国連総会本会議採択）

- 障害を理由とする差別の禁止
- 障害を理由とする差別には、あらゆる形態の差別（合理的配慮の否定を含む。）を含む
- 障害者の権利の実現のため、立法措置、行政措置その他の措置をとること。
- 障害者に対する差別となる既存の法律等の修正又は廃止
- 教育：インクルーシブ教育システムの確保



*条約の批准に向けて法整備等政府全体での取り組み

一政府全体での取り組みと教育に関する事項の概要一

- 「障害者基本法」の改正（平成23年8月5日公布）
- 中央教育審議会初等中等教育分科会報告
「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」（平成24年7月23日）
- 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」（平成25年6月26日公布）
- 文部科学省平成25年度「インクルーシブ教育システム構築事業」
- 「学校教育法施行令」改正（平成25年9月1日施行）

「インクルーシブ教育システム」とは

人間の多様性の尊重等の強化、障害者が精神的及び身体的な能力等を可能な最大限度まで発達させ、自由な社会に効果的に参加することを可能とするとの目的の下、障害のある者と障害のない者が共に学ぶ仕組みであり、障害のあるものが教育制度一般から排除されないこと、自己の生活する地域において初等中等教育の機会が与えられること、個人に必要な「合理的配慮」が提供される等が必要とされている。共生社会の形成に向けて、インクルーシブ教育システムの理念が重要であり、その構築のため、特別支援教育を着実に進めていく必要があると考える。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」
（文部科学省）より

インクルーシブ教育システムにおいては、同じ場で共に学ぶことを追及するとともに、個別の教育的ニーズのある幼児児童生徒に対して、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる、多様で柔軟な仕組みを整備することが重要である。小中学校における通常の学級、適級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要である。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」
（文部科学省）より

インクルーシブ教育システム構築のための 特別支援教育推進の考え方

障害のある子どもとない子どもができるだけ同じ場で共に学ぶことを目指す。それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けていけるかどうか、これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進」
(文部科学省)より

システム構築に関連するデータベース

インクルーシブ教育システム構築支援データベース
HPアドレス <http://inclusive.nise.go.jp/>
独立行政法人国立特別支援教育総合研究所

- 「合理的配慮」実践事例データベース
- 関係用語の解説
- 障がいのある子どもの就学に関する手続き
- 関連する法令・施策
- インクルーシブ教育システム構築に関するQ&A

システム構築に関連するデータベース

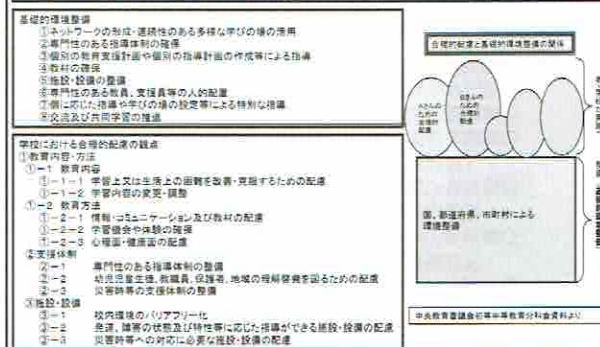
『教育支援資料』 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課
～障害のある子供の就学手続と早期からの一貫した支援の充実～

インターネット検索 「文部科学省 教育支援資料」

- 学校教育法施行令の一部を改正する政令の解説
- 教育相談・就学先決定のモデルプロセス
- 障がいの状態等に応じた教育的対応

基礎的環境整備と合理的配慮

「合理的配慮」と「基礎的環境整備」
障害のある子どもに対する支援については、法令に基づき又は財政措置により、国は全国規模で、都道府県は各都道府県内で、市町村は各市町村内で、教育環境を整備をそれぞれ行ない、これらは、「合理的配慮」の基礎となる環境整備であり、それを「基礎的環境整備」と呼ぶこととする。これらの環境整備は、その整備の状況により異なることではあるが、これを基に、自治体及び学校が、各学校にないで、障害のある子どもに対し、その状況に応じて、「合理的配慮」を提供する。



「特別支援教育」

- ・特別な教育的支援対象の拡大

「LD(学習症)」
「ADHD(注意欠陥多動症)」
「自閉スペクトラム症」

を含めて支援教育の対象に

- ・一人一人の教育的ニーズに着目

個別の指導計画の作成

保護者の
了解・参画

湖南市：来年度より保護者に提供

「発達障がい」とは？

認知特性

(知的障害 平均以下の知的能力)
学習症(LD) 特定領域の到達度の低さ
(聞く、話す、読む、書く、計算する、推論することの困難さ)

行動特性

注意欠陥・多動症(ADHD) 発達水準に不相当な不注意
多動性 — 衝動性

認知行動特性

自閉スペクトラム症(ASD) PDD、アスペルガー症候群、高機能自閉症
対人関係の困難さ、コミュニケーションの質的な困難さ
関心と活動における質的な偏り(想像力の欠如・こだわり)

「発達障がい」とは？

- ・脳の働き方の違いによる個人の相対的な特性
- ・適応機能の不全

- ・興味の偏り
- ・感覚の過敏・鈍麻
- ・独特なとらえ方

インクルーシブをめざした授業づくりの例

失敗すると泣き出す Aさん (体育編)

「ぼくもできた！」達成感のある授業をめざして

Aさんについて (小学1年生・自情支援学級)

- ・就学前は療育教室を経てことばの教室に通級
- ・小学校入学時に自閉症・情緒障害特別支援学級に入級
- ・音楽、体育、図工、体育は交流学級で学習

実態把握 合理的配慮の根拠

～願い・事実・専門機関からの情報を客観的・分析的に～

発達のねがい

- ・ルールを理解できるようになって欲しい。
- ・思い通りにならない時に泣かないで欲しい。

担任のねがい

- ・時間を守って学校生活を送って欲しい。
- ・相手の気持ちを聞いて一緒に遊んで欲しい。

体育の授業場面でのAさんのつまずきは…

- ・整列するとき、自分の場所が分からず、うろちうろちしてしまう。
- ・ボール運動、マット運動、ダンスなど、身体を各都度運動させる運動は苦手。
- ・うまくできない時に「早くして」「失敗した」と言われると泣いて動きが止まってしまう。逆に自分がしたいと、相手に「早く」と言ってしまう。
- ・鉄棒では「おなか痛い」と泣いて技に取り組めない。
- ・鬼ごっこは好きだが、追いかけても追いつかず、鬼になったままのことが多い。

専門機関からのアセスメント

- ・知的発達には平均の範囲内。
- ・視覚的に考え、操作する力が高い一方、視覚的短期記憶は弱い。
- ・言語コミュニケーションは苦手さがあるが、興味のある話題でのやりとりができる。
- ・仮定や例えなど目の前にない物事についてのイメージはもちにくい。
- ・興味の移り変わりが早く注意集中できる時間が短い。
- ・「広汎性発達障がい」の診断。

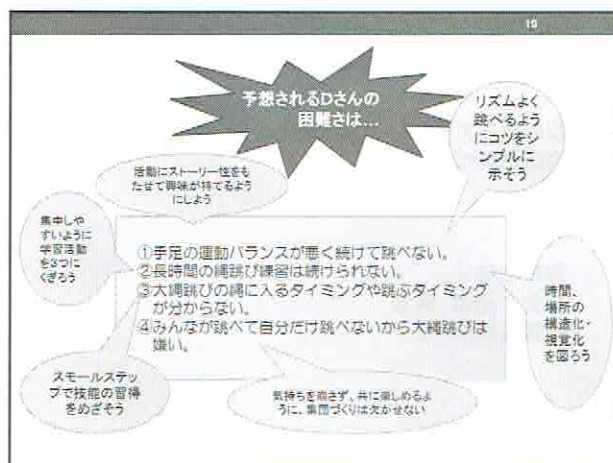
個別の指導計画
「専門機関からの情報」順に記載

合理的配慮の検討

本時の目標

- ・短縄で、リズムよく前回し跳びができる。
- ・みんなで大縄跳びをする楽しさを味わうことができる。

「参加する」だけにとどまらず、本時のねらいの到達をめざしAさんが達成感をもてる授業を考えよう！



学習活動	具体的な配慮
「ふえおに遊び」をしよう	・体育館の1/4という限定された空間で縄跳びをすることで、Dさんも友だちを追いかけ捕まえるという運動・体験の機会を生み出す。短時間で運動量が確保され効果的な準備運動となる。
今日の「修行」を知ろう	・館内の別のスペースに移って集合することで、活動の切り替わりを実感できる。
O「前とびにんじゃ」修行	・人気アニメソングをBGMとすることで、楽しく活動できる。 ・姿勢「わき-キューッ」リズム「タ-トン」と的確なキーワードにしてリズムよく跳ぶコツが伝えられ、身体の良い方が意識しやすい。 ・特別支援学級担任は、Dさんのペア児童と共に跳んだ回数を数える。担任が前回の記録と比べてどうであったかをその場でDさんに伝えることで意欲が持続する。
O「大なわにんじゃ」修行 「くぐり抜けの術」 目印のコーンからコーンをめざし跳る縄をくぐって走る 「とびぬけの術」 同じルートでは跳びはジャンプして縄を越えて走る	・活動前に、杖のコツと「声かけ名人」について伝える。 ・小鼻塚に活動を始めるときに見通しをもちやすい。 ・走り始めと走り終わる場所にコーンを置くことで、八の字跳びの理想的なコース取りが身に付き、大縄をくぐって走り抜ける感覚が身につくから縄を跳ぶ。シールを貼ることで、どこで跳ぶとよいかわかる。 ・「声かけ名人」の術を書いて示され、誰もが名人になれる。 (例：おしい！あと少し！がんばって！)
今日の「修行」をふり返る	・活動前、活動中に提示されたボードを見ながら本時をふり返ることで「楽しかった」だけではなくふり返りができる。

21

本時の児童の姿から

- ・興味に移りやすいAさんであるが、大縄跳びの間、順番を待つ列から外れることなく、常に縄の動きを目で追い、リズムよく縄を跳び越す姿があった。
- ・Aさんへの合理的配慮を考え「くぐり抜けから跳び越しへとスモールステップで活動を構成する」「動きのポイントを視覚的に提示する」といった指導の工夫が生まれた。その結果、Aさんを含め学級の全員が、大縄の八の字跳びを達成することができた。
- ・失敗を責められたり、できないことの指摘を受けたりすると気持ちを崩して参加できなくなるAさんへの合理的配慮を考え「声かけ名人」の指導の工夫が生まれたが、随所で友だち同士励まし合う姿が見られ、この授業を通して学級全体の支持的態度を育てていくことにつながった。

22

授業での支援

- ・指示の出し方
 - ・聞く構えを整えてから
 - ・端的に 簡潔に (×くどい話)
 - ・具体的に (×抽象的 ×曖昧な表現)
 - ・落ち着いた声で (×高く大きな声)
 - ・指示が理解されたかどうか把握する

ゆっくり
わかりやすく
メリハリをつけて

23

授業での支援

- ・集中を促す
 - ・見通しをもたせる(終わりがわかる)
 - ・学習形態の工夫 (変化をつける)
 - ・視覚支援
 - ・注目すべきところを明確に
 - ・曖昧な時間をつくらない
 - ・情報の整理

24

支援者の向き合い方

好ましい対応

認める「それでいい」
穏やかな表情で対応
楽しいことをとりいれる
さっぱりと 前向きに

改善しない対応

責める
怒る
強く注意する
追い込む
くどくどと説教
感情的に

子どもの話をよく聴く！！

発達支援に必要な3K

- ・ 心 子どもを思う心情
組織的な動きを受け入れる素直な気持ち
- ・ 機動力 先輩の先生に相談
良い姿を保護者に連絡
さっと工夫をとり入れる
- ・ 根拠 専門機関との連携

「自立活動」という視点

目標

個々の児童生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達の基盤を培う。

内容

- | | |
|----------|--------------|
| 1. 健康の保持 | 2. 心理的な安定 |
| 3. 環境の把握 | 4. 人間関係の形成 |
| 5. 身体の動き | 6. コミュニケーション |

1. 健康の保持

- (1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること。
- (2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること。
- (3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること。
- (4) 健康状態の維持・改善に関すること。

2. 心理的な安定

- (1) 情緒の安定に関すること
- (2) 状況の理解と変化への対応に関すること
- (3) 障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること

3. 人間関係の形成

- (1) 他者とのかかわりの基礎に関すること。
- (2) 他者の意図や感情の理解に関すること。
- (3) 自己の理解と行動の調整に関すること。
- (4) 集団への参加の基礎に関すること。

4. 環境の把握

- (1) 保有する感覚の活用に関すること。
- (2) 感覚や認知の特性への対応に関すること。
- (3) 感覚の補助及び代行手段の活用に関すること。
- (4) 感覚を総合的に活用した周囲の状況の把握に関すること。
- (5) 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること。

5. 身体の動き

- (1) 姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること。
- (2) 姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること。
- (3) 日常生活に必要な基本動作に関すること。
- (4) 身体の移動能力に関すること。
- (5) 作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること。

6. コミュニケーション

- (1) コミュニケーションの基礎的能力に関すること。
- (2) 言語の受容と表出に関すること。
- (3) 言語の形成と活用に関すること。
- (4) コミュニケーション手段の選択と活用に関すること。
- (5) 状況に応じたコミュニケーションに関すること。

自己理解を深める



考え方のくせを本人と共に見いだす

- ・白か黒かといった思考
- ・一般化のしすぎ
- ・マイナス化思考
- ・感情的決めつけ
- ・すべき思考
- ・レッテル貼り
- ・自己中心的思考

『働くために必要なこと』品川裕香
(第四章 自分の特性を理解すれば道はきっと開ける)より

自己理解の学びの重要性

「支援」を「支援者のものから当事者のものへ」という視点

- ・「理解」「指導法」が進んできて・・・

「子どもの願いや要求を受け止め、その子の発達段階に合わせた目標を立て、その達成のため、認知の特性を考慮した手立てで指導を重ねる」



- ・教育活動の中から見えてきたことを「自己理解」に集約

- ・自分の良さの自覚(得意なことだけでなく苦手なことへの向き合い方にも良さがある)
- ・困難なことへの対処法がわかる
- ・自分の苦手に折り合いをつけることができる
- ・自分に適切な目標を見いだせる

ここへつなげていくという視点

自立活動「自己理解の学習例」

最近のエピソードから、「自分らしさ～Ｙくんらしさ～」をふりかえり、まとめました。

ONくんのお母さんから聞いたことより

お弁当を食べるとき、授業でグループを作るとき、YくんがNくんは、声をかけた。せつかくの誤りも、断られたこともあったが、声をかけ続けてくれたことで、NくんはYくんと仲良くなることができるようになった。「一人でいいわ。」と思っていながらNくんを「友だちと仲良くできるNくん」に変身させたのは、Yくん、Yくんが誤り、友だちの反応がいまいちでもやさしく続けたからこそ、Nくんは変わった。Nくんの母さんがとても喜んでおられた。Ozone、Nくんは声をかけたのか。

○なぜ、Nくんに声をかけたのか。

Y なんとなく

F (1)「N.一人でさみしそう」と思ったから

②「ぼくも一人はいやだな」と思ったから

③その厚み

Y. ③ 442

OXYGENATION

- ・人の気持ちを想像できる人・・・おもしろい・やさしさ
- ・人を求める気持ちをもっている・・・心が健康(健全)
- ・よいと思ったことを行動に移せた・・・勇気・行動力

もちつもちれの餅

T:「こうして誰かの役になっているYくん、**「人の役に立つこともあれば、人の世話になることもあるよ」**

「もちもちたね」っていうよ

「いもどつと」て、人を騙ることは禁（いも）なり」

「ひょっとして、
V「さうだねえ」

自立活動「自己理解の学習例」

- ・高1の3学期から完全不登校「2年になったら学校に行く」
- ・高2 4/21 支援室で面談 不登校状態継続
- ・進路変更に対する本人の意思確認「迷っている」
- ・私立の通信制見学 本人の違和感
- ・学校復帰をめざす
- ・服薬
- ・別室から
- ・細やかな校内体制
- ・6月教室復帰

「7/28 今回の事で気がついたこと」

- ・自分の意志
はっきりもつー意思表示
 - 支援室……整理
 - カウンセラー……聞いてもらえる
 - 学校の先生……具体的な情報
 - 病院……身体(心)の調子
 - 薬:楽な状態
- 相談する
- ・大学に行きたいという夢＝自己実現が原動力に
「なりたい自分」
- ・家族の存在
 - 母:支援室に連絡 きっかけを作ってくれた 支えてもらった
 - 妹:遊んでつきあってくれた 兄:進路の相談にのってもらった
 - 父:話してくれた

湖南省個別支援移行計画の取組の紹介

- ・義務教育終了時点(中学3年)で作成
- ・作成に本人の参画をめざす
(生徒用ワークシートの活用)

集団づくり ～学級・学年・学校～

- ①足りないところ、うまくやれないところを指摘し合うがずすした集団
 - 怖くて、発表できない。
 - みんなの前で恥をかきたくない。(畏るふり・反抗)
 - 先生が求めている答えは何かを考えて、個々の自由な発想は出せない。
 - 支援の必要な子は特にいたたまれない。
 - できない自分を守るために悪びれる。(これならできる)荒れが生じる。
 - 教師によって大きく態度が変わる。
- ②人はそれぞれ強いところがあるといった前提のもと、それを補い合ったり助け合ったりできる集団
 - 間違っても平気。のびのび表現(発表・記述・制作)できる。
 - 様々な考えが出て、集団で学ぶよさ。(深まる・多様な考えや価値に触れる)
 - 支援の必要な子も安心して授業に参加できる。
- ③それぞれの個性を認め合い、尊重し合っている集団
 - 自分らしくリラックスして授業を受けることができる。
 - 「序列」や「普通」にひくひくする必要がないので、どの子も表現でき、表現したことが授業で生かされる。

インクルージョンをめざして ～地域で仲間と共に～



自己実現に寄り添う

人とつながる力
自分のことが好き
家族が好き
友だちが好き
先生が好き

第 2 回教員研修資料

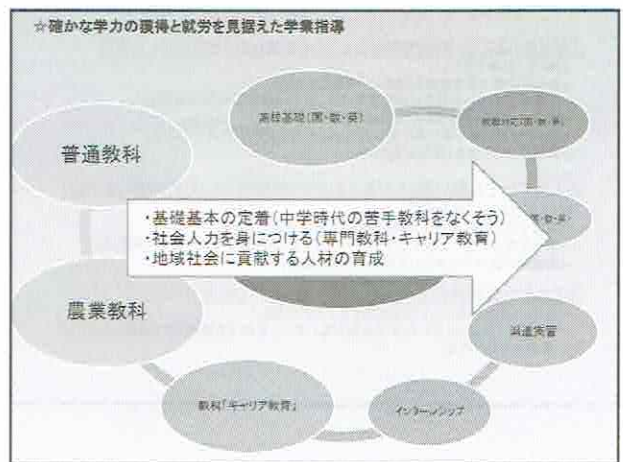
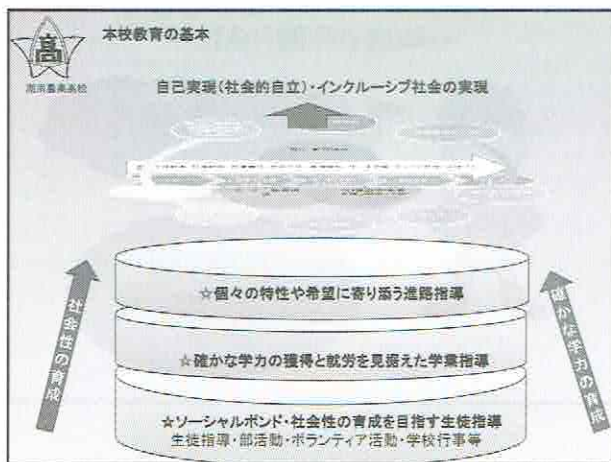
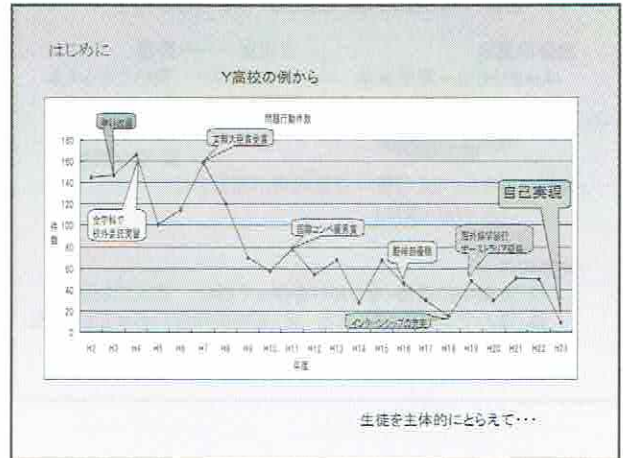
湖南農業高等学校職員研修会

H26.12.22
於 セミナーハウス

「湖南農業3S構想」

生徒の自己実現を目指して

滋賀県立湖南農業高等学校
教頭 井 上 升 二



湖南農業 「2S」 構想

「slow」
で
「smart」な人づくり

何が slow

教育課程 基礎基本の定着 中学校時代の苦手科目をなくそう！

苦手科目を克服し、基礎・基本をしっかりと身につけられるよう、学校独自の科目を用意している。

①1年生	②2・3年生
高校までの基本をしっかりと身につける	進路に応じた基礎を身につける

就職対応

「高校国語の基礎」 「高校数学の基礎」 「高校英語の基礎」	「実用国語」 「社会人のための数学」 「コミュニケーション英語Ⅰ」
-------------------------------------	---

進学対応

「国語表現」 「英語会話」 「進学のための数学」



何が smart

社会人力 学校独自の教科「キャリア教育」で「社会人力」を身につけます。

3年間を通じて、生徒に将来を考えたり、夢を実現する力をつけるため、学校独自の教科「キャリア教育」があります。

「キャリア教育」

1年生「コミュニケーション講座」
2年生「インターンシップ」
3年生「キャリアアブランチング」「進道実習」



各科専門教育

生徒を主体にすることより さらにsmartに

農業科(生徒を主体的に)

・地域ブランド開発 草津野菜「SOFIX」
市役所、立命館大学



・イナズマロックフェスと「タボタ米」でコラボ

・県新品種「みずかがみ」
あなたが選ぶ「おいしいお米コンテスト」決勝大会進出



・毎日地球未来賞
水草堆肥を用いた環境教育



食品科(生徒を主体的に)

・高校生カレー甲子園
毎日放送決勝大会



・地域特産品の開発



・うまいもん甲子園



・草津料理スイーツレシピコンテスト入賞

・環境リーディング事業



・新食品の開発研究



花緑科(生徒を主体的に)

・国学院大学
「地域の伝統文化に学ぶ」コンテスト
学校活動部門優秀賞



・全国フラワーデザインコンテスト
於 横浜 奨励賞

・全国産業教育フェアフラワーアレンジ



・草津川跡地公園設計
・全国造園デザインコンクール

・国家資格
造園技能検定、室内園芸装飾、フラワーアレンジ



もっとSmartに

校外実習・交流活動

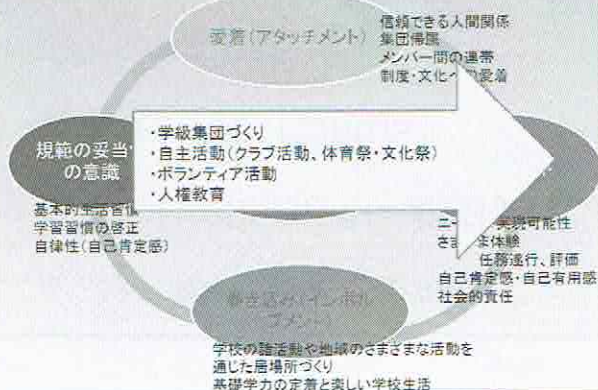
- ・農業先進地見学の実施
- ・北海道実習(約3週間、夏季休業中)
- ・八ヶ岳中央農業実践大学校の夏季実習参加(1週間)
- ・農業ふれあいスクール(年間3回):高校生が先生役になり、小学生が農業体験
- ・淡海生涯カレッジ:その年ごとにテーマを設定した社会教育講座
- ・芋掘り体験:近隣の幼稚園、保育園等を対象とした体験(農業技術科)
- ・販売実習:生徒による野菜や花、果物、鶏卵などの街頭販売
- ・本校販売所での即売会実施:毎月2~4回、木曜日
- ・インターンシップ(就業体験):2年生で5日間
- ・派遣実習による年間を通じた長期実習(デュアルシステム):3年生で年間20日間
- ・農業大学校特別講座



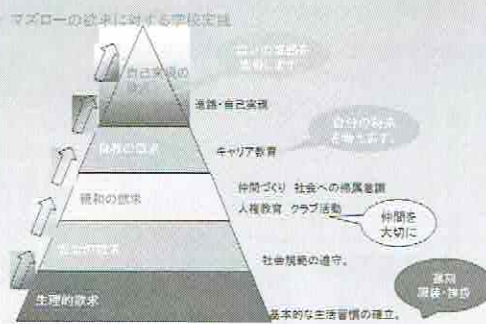
生徒を主体者として地域での生活体験を増やす。

滋賀県立湖南農業高等学校

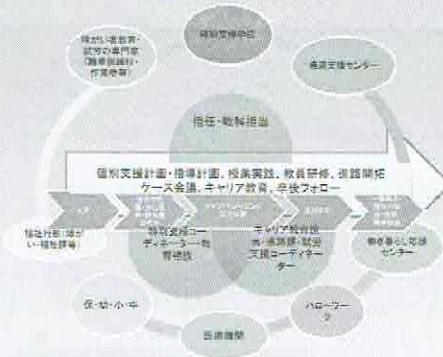
★ソーシャルボンド・社会性の育成を目指す生徒指導



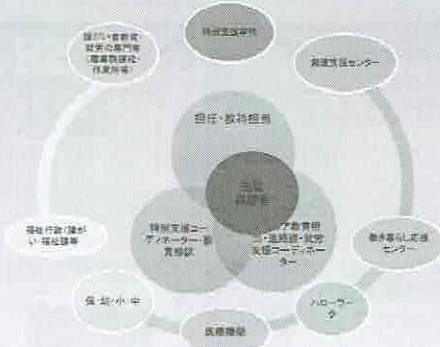
☆ソーシャルボンド・社会性の育成を目指す生徒指導



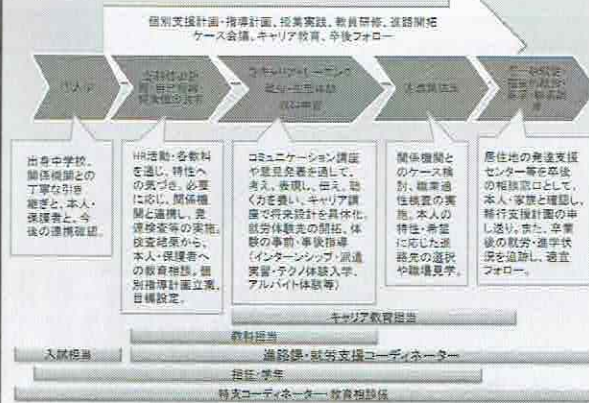
☆国々の特性や希望に寄り添う進路指導



☆個々の特性や希望に寄り添う進路指導



個々の特性や希望に寄り添う進路指導



湖南農業 「3S」 構想

「slow」
で
「smart」な人づくり
「Self-realization」

生徒の **自己実現** を目指します。

「私でも働くことができますか？」～「進路保障」の内実を再確認する～

滋賀県人教・県立湖南農業高等学校 野田 宏
徳永 信一

1) はじめに

学校現場では「将来、どんな職に就きたいか」、そのために「どこへ進学するか」という「進路指導」が鎮座し、時には「学ぶ」動機さえ「将来のため」に置き換えられる。私たちも当初はAさんの進路をどうするかを考えてきたが、彼女の事情を考慮すると、「働くこと」と「生活する」ことの両方を考える必要があった。本人と話し込み、いろんな所からアドバイスをもらっているうちに、私たちはAさんの出口としての「進路指導」でなく、Aさんの10年、20年を見通した上で、具体的な「あした」を獲得することを考えるようになった。この取り組みから、単なる「進路指導」でなく、同和教育が大切にしてきた「進路保障」の視点の大切さを再認識するようになった。

2) Aさんの「進路」を考える

2011年4月にAさんが入学してきた。入学後は、本校で重視される「課題」もしっかりと期日までに提出でき、学習面では特に問題がなかった。対人面も、周囲の生徒ともつながることが出来て、高校生活の滑り出しは順調であった。Aさんは絵を描くことが好きで、美術イラスト部に所属し、描いた絵を周りの友達によく見せていた。この間クラスでは様々なことが起こっていたが、Aさんは穏やかに1年を終えた。

座学の授業で気になることはなかったが、2年生になって実習科目が増えると不安要素が目立ち始める。「Aさんと一緒にすると倍以上に作業が増える」、「周囲の状況にAさんが気づかない」など、一緒に実習をする同じ班の生徒から不満が出るようになった。時には「Aさんは仕事ができない。」と直接言われたこともあった。卒業後の就労を考えたとき、不安材料が目立ち始めた。

Aさんは小学校3年の時に母を亡くしており、身寄りや縁者がなく、養護学校卒業後、施設から通学していた。そのため、高校卒業と同時に施設を退所しなければならず、彼女の進路を考えるに当たっては、卒業後の仕事と生活の両面を考える必要があった。この時点でAさん自身は、漫画家になるために専門学校に進学したいと考えていたのだが、これはAさんの現実からはなかなか実現困難な希望であった。まず、学費をどう工面するのか、交通費をどうするのか、一人暮らしにはどの程度生活費がいるのか、そもそも一人で生活ができるのか…。本人の希望を大切にしたいとは思いつつも、実際の進路面談では、一つ一つ彼女の置かれている状況をふまえて現実を突きつける辛い時間になってしまった。一年後に彼女の生活、行動範囲、家賃、収入、唯一の肉親である姉とのつながり…これらを十分に満たすようなビジョンはまだ私には思い浮かばなかった。

3年生になり、周囲が進路実現に向けて動き出す中、Aさん、施設の先生と三者で相談の上、彼女には一般就労とは別のアプローチで彼女に合う仕事を探そうという方向を確認した。当時、Aさんは表面的には淡々と暮らしているように見えたが、周囲の生徒の姿を見て自分はどうして良いか

わからず、焦りと不安を募らせていた。同時期、高校卒業後の退所を想定して、施設では自立に向けたトレーニングが始まる。掃除、洗濯、家事といった基本的なことを今まで以上に自分で行うことは、彼女の自立のためには必要だったとはいえ、進路が決まらない不安の中ではストレスが増すように感じられた。ちょうどこの頃、専攻の実習担当の先生に、Aさんは「私でも就職できますか?」「私でも働くことができますか?」といった内容のことを持ちかけるようになる。この話を聞いて、私は愕然とした。彼女は彼女なりに現実に向き合おうとしているのに現実に向き合いきれていないのは結局私自身ではないか、と痛感し、彼女の不安を少しでも軽減するために一刻も早く具体的な方向性を見出さなければ、と強く思うようになった。

3) オリジナルの「勝手に応援団」結成

本校では3年前より、特に卒業後の生活に不安を抱える生徒について個々に「個別の進路実現プロジェクト（通称「勝手に応援団」）の枠組みづくりを進めている。当然、Aさんについてもこのプロジェクトを立ち上げたが、これまでの生徒には保護者がおり、生活の基盤となる「場所」があった。しかし、Aさんには生活基盤としての「帰る場所」がなく、元々の居住地にも縁者は一人もいない。わかっているのは高校卒業と同時に施設も退所しなければならないことであり、卒業後の生活基盤、帰るべき「場所」をまず考える必要があった。この時点での援護主体は施設のある県東部の市であるが、本人は施設のある市よりも3年間の通学で本校近辺に土地勘や友人が出来て、姉の居住地にも近くAさんも心強く感じられることなどから、県南部エリアでの生活が望ましいということが想定できた。しかし、援護主体でない県南部の行政や関係機関に相談しても「仮定のことは言えない」「担当でもないのに無責任なアドバイスはできない」と素っ気ない返答が続いた。いくつかの市の福祉、労政担当者からは「日本の福祉行政は当事者申告が基本です。なぜ本人が相談に来ないのですか。」「福祉行政は慈善事業ではありません。」「それは学校の仕事ですか。」とも言われたことがある。

そんな中、ある会議で我慢できなくなり、「来年の卒業式が終わったあと、この子がどこで『ただいま』と言うのか。それを本気で考えているのは私たちだけだということがよくわかりました!」と言って会議を打ち切ったことがあった。数日後、その会議に来ていただいていた方から連絡があり、「仕事上無責任なことは言えないのであんな言い方しかできなかったが、先生に言われたことは本当にショックでした。自分は何のためにこの仕事をしているのかと随分考えました。…その上で、職域に関係なく、Aさんの居場所作りに私も一緒に参加させてください。」と言っていただいた。この言葉は、私たちには涙が出るほどうれしかった。形やシステムではなく、Aさんを軸に人が繋がり、本当の「勝手に応援団」が動き始めたことを実感した。

その後、援護主体の市と協議の上、高校を軸にした「応援団」で県南部での生活基盤をさぐることに、援護責任は主体となる市が持つことが確認され、Aさんの「居場所」探しが始まった。プロジェクトで協力をいただいている関係機関の協力もあって、夏休みに自立支援ホームでの体験生活に参加した。ここでの体験はAさんには楽しかったようで、入所が決まる頃にはAさんの表情も和らいでいった。これと平行してすすめていた仕事探しでは、高校から一般就労でなく体験を通して就労に結びつける十分な体制もなく、事業所の理解不足もあり、体験の受け入れさえまななかった。

唯一体験させてもらった事業所での体験を終えた時にはAさんは「とてもしんどかったです。」と言ってぐったりしていた。結果的には、本人の新生活への負担も考えて、自立支援ホームで生活しつつ、これも在学中に体験入校してAさんが「楽しかった。」と言っていた職業訓練校に通い、ゆっくり働くことに関するスキルを習得することとなった。これも偶然のことであったがその訓練校にはAさんが施設入所の際に関わっていただいた方がおられた。

4) Aさんと私たちのその後

今、Aさんは元気に職業訓練に取り組んでいる。先日、久々に会ったAさんは「毎日働く訓練、がんばってます！」と明るく言ってくれた。夏休みに本校の三年生が体験入校した際には先輩としていろいろ世話を焼いてくれた。訓練を通して手先が器用であることに自信を持ったAさんは今、「姉のウエディングドレスを自分で作る」という目標を立てており、器用さを活かせる仕事を見つけかけている。まだまだAさんの働き、暮らし、居場所の獲得のための課題は多く、Aさんの「勝手に応援団」活動は現在進行形であるが、かつて実習担当の先生に「私でも働くことができますか。」と不安を漏らしたAさんの面影は、今はもうない。「勝手に応援団」の存在にAさんがどれだけ気づいているのかはわからないが…。

Aさんの抱える事情は確かに本校生徒の中でも例外的である。私たちは当初、Aさんのたちまちの居場所をどうするかという「進路指導」の取り組みとしてスタートしたが、「卒業後」を考えるためには仕事、生活の両方を考える必要があり、様々な出会いとつながりを通して、私たちは十年、二十年、ずっと先に彼女の「居場所」で笑っているAさんの姿を願うようになった。そのためにできることは何か、つながれる人は誰か…と、具体的な「あした」の獲得を考えるようになった。

かつて「同和教育の総和は進路保障である」といわれてきたが、同和教育から「人権教育」という曖昧な言葉に変わっても、私たちに大切なことは、「目の前のこの子をどうするのか」という現実から始まり、「この子」の将来を想いながら社会に迫り、社会に働きかけることだと実感している。「その子のあした」は現実の社会と無縁には存在しない。現実の社会を、個々の進路実現の取り組みを通して変革する（社会に参画する）ことが、進路保障の取り組みとして重要だと痛感した。

平成26年度文部科学省委託
「キャリア教育・就労支援等の充実事業」研究紀要

平成27年3月発行

発行者 滋賀県立湖南農業高等学校

〒525-0036 滋賀県草津市草津町1839

TEL 077-564-5255 FAX 077-562-1186

